

課題番号	GZ005
------	-------

先端研究助成基金助成金(最先端・次世代研究開発支援プログラム) 実施状況報告書(平成23年度)

本様式の内容は一般に公表されます

研究課題名	アジア沖積平野立地型都市郊外における循環型社会を基調とした都市農村融合と戦略的土地利用計画
研究機関・部局・職名	和歌山大学システム工学部・講師
氏名	原 祐二

1. 当該年度の研究目的

<p>阪南・和歌山については岸和田市・堺市周辺地域、バンコクについてはノンタブリ県、マニラについてはケソン市、天津については環城区を具体的なデータ収集地域として設定する。本年度は、すでに調査研究が進行している堺、ノンタブリ県、ケソン市を中心に、以下の目的のもとで現地実証調査を進めていく。</p> <p>A 緑地・農地の空間分布を、その利用・所有形態も含め明らかにする。</p> <p>B 有機性廃棄物(資源)の排出特性とフローを定量的に把握する。</p> <p>C 都市郊外緑地・農地における青果生産量・搬出フローを明らかにする。</p>
--

2. 研究の実施状況

以下研究マトリクスに要約する。				
	堺市	ノンタブリ県	ケソン市	天津市
A 緑地・農地の空間分布	本年度実施(1)	本年度実施(3)	既達成	既達成
B 有機性資源の排出特性とフロー	次年度データ収集予定	既達成	既達成	次々年度研究予定
C 都市郊外緑地・農地における青果生産量・フロー	本年度実施(2)	本年度実施(3)	本年度実施(4)	予備調査実施(5)

(1)農地管理状況等に関する詳細な現地調査および地理情報システムを用いた解析の結果をまとめ、国内論文誌に投稿済みである。

(2)農産物直売所における聞き取り調査や青果物流通統計を用いた解析の結果をまとめ、国際論文誌に投稿済みである。

(3) 青果物消費に関する世帯調査と地理情報システムを用いた野菜農地・果樹の空間分布の把握に基づき国際論文誌への投稿準備中である。

(4)現地フードスタンドなどにおける聞き取り調査の結果および地理情報システムを用いた解析の結果をまとめ、国際論文誌への投稿準備中である。

(5)現地における農家、卸売市場、日系スーパーマーケットなどへの聞き取り調査を実施し、青果物フローの概要モデルを把握した。次年度はより詳細な社会調査・地理情報システム解析に取り組む予定。

3. 研究発表等

<p>雑誌論文 計6件</p>	<p>(掲載済み一査読有り) 計4件 Davivongs, V., Yokohari, M. and Hara, Y. (2012): Neglected canals: deterioration of indigenous irrigation system by urbanization in the west peri-urban area of Bangkok Metropolitan Region. <i>Water</i> 4, 12-27. http://dx.doi.org/10.3390/w4010012 原 祐二 (2011): 2009 年台風オンダイによるマニラ首都圏東部の洪水被害 -2002 年論文結果との比較による洪水特性変化要因の考察-. <i>農村計画学会誌</i> 30, 207-212. Motoyasu, Y. and Hara, Y. (2011): Satoyama landscape change in the periphery of a Japanese regional city from 1884 to 2002 - a case study in Wakayama Prefecture -. <i>Proceedings of International Symposium on City Planning</i>, 529-538. Hara, Y., Furutani, T., Murakami, A., Palijon, A.M. and Yokohari, M. (2011): Current organic waste recycling and the potential for local recycling through urban agriculture in Metro Manila. <i>Waste Management & Research</i> 29, 1213-1221. http://dx.doi.org/10.1177/0734242X10386638 (掲載済み一査読無し) 計1件 土屋一彬・原 祐二・新屋匡翔・谷口正伸(2012): アジア沖積平野立地型都市郊外における循環型社会を基調とした都市農村融合と戦略的土地利用計画—メトロマニラとバンコクからの現地報告—. <i>和歌山大学国際教育研究センター年報</i> 8, 56-60. (未掲載) 計1件 Zhou, D., Matsuda, H., Hara, Y. and Takeuchi, K. (2012): Potential and observed food flows in a Chinese city: a case study of Tianjin. <i>Agriculture and Human Values</i> (In Press). http://dx.doi.org/10.1007/s10460-012-9374-x</p>
<p>会議発表 計4件</p>	<p>専門家向け 計3件 新屋匡翔・原 祐二・土屋一彬 (2011): 地方都市における市民農園の現状と附帯施設の有用性に関する研究—和歌山県を事例として—. 第 8 回環境情報科学ポスターセッション, 東京, 2011 年 11 月. Hara, Y., Tsuchiya, K., Murakami, A., Palijon, A.M. and Yokohari, M. (2011): Urban Agriculture and Bioresource Management in Asian low-lying cities. International Workshop on Sustainable City Region, Manila, 2011 年 8 月. 阪口大介・原 祐二 (2011): 指定管理者制度下での NPO 法人による里山公園管理の実態—和歌山県海南市わんぱく公園を事例として—. <i>農村計画学会 春期大会学術研究発表会</i>, 東京, 2011 年 4 月. 一般向け 計1件 原 祐二 (2011): 和歌山大学の GIS 研究教育および地域における普及啓発活動. 「関西 G 空間フォーラム」in 和歌山, 2011 年 12 月.</p>
<p>図書 計0件</p>	
<p>産業財産権 出願・取得状況 計0件</p>	<p>(取得済み) 計0件 (出願中) 計0件</p>
<p>Webページ (URL)</p>	<p>http://www.wakayama-u.ac.jp/~tcy/urs/</p>
<p>国民との科学・技術対話の実施状況</p>	<p>10 月 29 日・30 日, 11 月 5 日・6 日に本研究事業により集約された地理情報を題材とした GIS 公開講座を和歌山大学にて実施した。詳細は和歌山大学ホームページにて公開されている。 http://www.sys.wakayama-u.ac.jp/es/event/gis/</p>

様式19 別紙1

新聞・一般雑 誌等掲載 計〇件	
その他	

4. その他特記事項

なし

実施状況報告書(平成23年度) 助成金の執行状況

本様式の内容は一般に公表されません

1. 助成金の受領状況(累計)

(単位:円)

	①交付決定額	②既受領額 (前年度迄の累計)	③当該年度受領額	④(=①-②-③)未受領額	既返還額(前年度迄の累計)
直接経費	25,000,000	10,814,000	0	14,186,000	
間接経費	7,500,000	3,244,200	0	4,255,800	
合計	32,500,000	14,058,200	0	18,441,800	0

2. 当該年度の収支状況

(単位:円)

	①前年度未執行額	②当該年度受領額	③当該年度受取利息等額 (未収利息を除く)	④(=①+②+③)当該年度合計収入	⑤当該年度執行額	⑥(=④-⑤)当該年度未執行額	当該年度返還額
直接経費	8,215,437	0	0	8,215,437	8,208,780	6,657	
間接経費	2,440,200	0	0	2,440,200	2,440,200	0	
合計	10,655,637	0	0	10,655,637	10,648,980	6,657	0

3. 当該年度の執行額内訳

(単位:円)

	金額	備考
物品費	1,156,292	検土杖(野外土壌調査具)等
旅費	2,519,912	研究資料採取、学会発表による旅費等
謝金・人件費等	4,307,757	特任人件費、研究協力謝金等
その他	224,819	農村計画学会誌投稿料等
直接経費計	8,208,780	
間接経費計	2,440,200	
合計	10,648,980	

4. 当該年度の主な購入物品(1品又は1組若しくは1式の価格が50万円以上のもの)

物品名	仕様・型・性能等	数量	単価 (単位:円)	金額 (単位:円)	納入 年月日	設置研究機関名
				0		
				0		
				0		